

株主のみなさまへ

第60期 営業のご報告

2020年4月1日～2021年3月31日



Ever Onward — 限りなき前進

当社は、「手袋編機の全自動化」を実現するため、現会長・島正博によって1962年に創立されました。

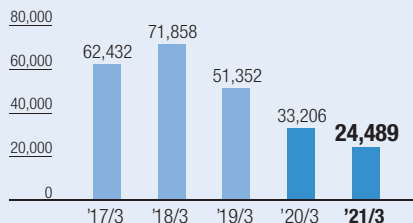
「Ever Onward — 限りなき前進」を経営理念に掲げ、常に新しい技術の開発を目指して、惜しみない努力と未知なる領域への挑戦を続けてまいりました。

創立以来、時代のニーズを先取りした横編機やデザインシステムを次々と開発し、世界のトップメーカーへと成長。1990年代には、「産業革命に匹敵する」と評された完全無縫製型の「ホールガーメント®横編機」の開発に成功しました。

今後も新たな技術開発へのチャレンジを続けながら、企画提案型のビジネスモデルの浸透を図り、アパレル・ファッション業界をはじめとするユーザー業界の発展に貢献してまいります。

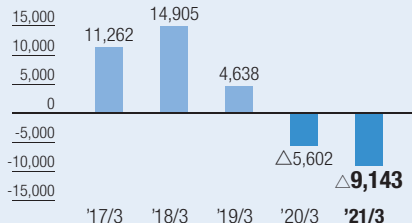
売上高

(百万円)



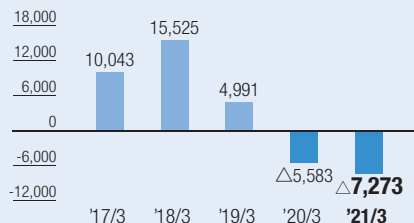
営業利益・損失(△)

(百万円)



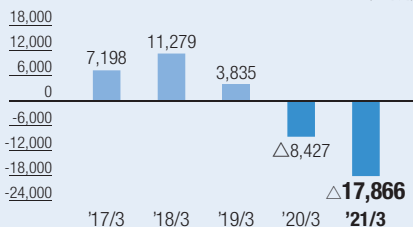
経常利益・損失(△)

(百万円)



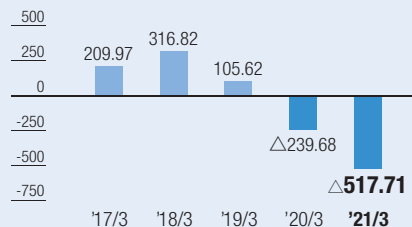
親会社株主に帰属する当期純利益・損失(△)

(百万円)



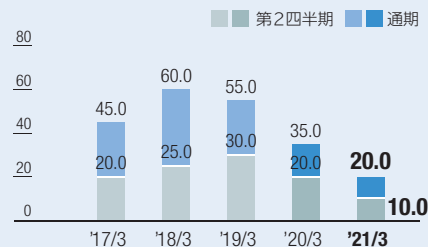
1株当たり当期純利益・損失(△)

(円)



1株当たり配当金

(円)



2期連続の赤字計上を真摯に受け止め、 全社一丸で「変革」と「再生」を実現していきます。

代表取締役社長
島 三博



Q1 当期(2021年3月期)の業績について説明してください。

A1 顧客の設備投資が低調となり、2期連続の赤字計上となりました。

当期(2021年3月期)の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各国で都市封鎖(ロックダウン)や外出制限などの実施によって多くの産業の活動が停滞し、深刻な景気後退に陥りました。

当社グループが製品を供給するアパレル・ファッション業界においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くの店舗が休業・閉鎖を余儀なくされ、また、消費者が支出を抑制したことも加わり、衣料品の販売が激減しました。

アパレル・ファッション業界では、環境意識の世界的な高まりを受けて、過剰生産・過剰在庫を抑制する動きが前年度(2019年度)から顕在化していました。当期はその大きな流れの上にコロナ禍が重なったことで、将来の見通しを不安視する各地の生産工場において設備投資が総じて低調に推移しました。そのためコア・ビジネスである横編機事業は、主力市場とする中国やASEAN諸国、欧州市場で受注が大幅に落ち込み、デザインシステム関連事業も横編機の販売不振に連動して売上高が減少しました。

トップメッセージ

この結果、当期の連結売上高は244億89百万円(前期比26.3%減)の大幅な減収となりました。利益面については、販売台数の大幅な減少や販売単価の下落に加え、生産調整に伴う工場操業度低下の影響から売上総利益率が悪化したことなどにより、営業損失91億43百万円(前期は営業損失56億2百万円)、経常損失72億73百万円(前期は経常損失55億83百万円)と、いずれも2期連続の損失計上となりました。

さらに、特別損失として固定資産に関する減損損失および関係会社株式評価損を計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純損失は178億66百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失84億27百万円)の大幅な赤字計上となりました。

Q2

これまでになく大幅な業績低下をどのように捉えていますか？

A2

コロナ禍以前からの急速なニーズの変化に対応できなかったと反省しています。

売上高の大幅な低下、2期連続の赤字計上という厳しい結果に対し、私を含め経営陣全員が深く反省しております。最大の反省点は、アパレル・ファッション業界が抱えている課題に対し、シマセイグループ全体のポテンシャルを活かし切れなかったことです。

前述のように、アパレル・ファッション業界ではコロナ禍以前から設備投資の低迷状況が続いていました。それは、業界全体が新たな方向性を模索していたことの表れでもあったと思います。多くの企業が大量生産、大量消費を前提とした旧来のビジネスモデルから脱却を志向しつつも、分業化されたサプライ

チェーンに向き合い、変革の第一歩を踏み出せずにいました。

そうした状況の中、当社グループはニット製品の可能性を大きく広げるホールガーメント®横編機や、バーチャルサンプルによって商品企画のプロセスを飛躍的に効率化できるデザインシステムをはじめ、生産工場やアパレル企業のビジネスモデル変革の強力な武器となる製品・サービス・ソリューションの提案活動を世界各地で展開してきました。

2020年度には、原料から企画・製造・販売・消費者までをデジタルで結ぶ「yambank®(ヤーンバンク)」、WEBを介して提供するデザインソフトウェアのサブスクリプションサービス「APEXFiz®(エイペックスフィズ)」といった新サービスも発売しました。

しかし結果的には、お客様に「最初の一步」を踏み出してもらうための強烈なアプローチができませんでした。それは営業場面での提案力だけでなく、お客様が納得するためのデータや製品自体のパフォーマンスなども含め、グループ全体で業界を変えていく力が不足していたということであり、まだまだ強化・改善していかなければならないという認識に至っています。

Q3

新中期経営計画の考え方について説明願います。

A3

4つの重点施策により、業績の黒字化と顧客ビジネスの変革をサポートしていきます。

2020年度の反省を踏まえ、2021年度(2022年3月期)から新しい3カ年中期経営計画「Ever Onward 2023」をスタートさせました。

新中期経営計画では、今後3年間で業界全体の変革の流れ



を作りながら、まずは業績を黒字化させることを喫緊の課題として4つの重点施策を推進していきます(詳細は9ページ参照)。特に「ホールゲーム事業の最強化」については、経営資源を効率的かつ集中的に投入し、従来型の横編機中心からホールゲーム横編機中心の事業構造への転換を目指します。製品機能を進化させるための開発・マーケティングや、コストダウンを推進するとともに、サービス体制の強化で販売を促進していきます。また「ソリューションビジネスへの業態変換」に関して、「Yarnbank」や「APEXFiz」のさらなる市場浸透を図るとともに、顧客ビジネスの高付加価値化・省力化・合理化に貢献できる新たなソリューション開発にも注力し、アパレル・ファッション業界全体のサプライチェーン改革を提案していきます。

一方、財務対策としては長期化するコロナ禍の影響を見据えつつ、今後も支出の抑制に努めていく方針です。しかし、中長期視点での企業成長のために必要不可欠と判断される施策については、今後も止めることなく進めていきます。特に競争優位性の基盤となる技術開発については、高水準の開発投資を継続していく方針です。

Q4 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A4 「変革」と「再生」をキーワードに 全社一丸で挑戦してまいります。

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付け、事業の持続的発展を通じて安定した配当を、長期にわたって継続することを基本方針としています。

当期については、大幅な損失計上とはなりましたが、安定配当の維持という基本方針から中間・期末配当金とも一株につき10円、年間配当金20円で実施させていただきました。

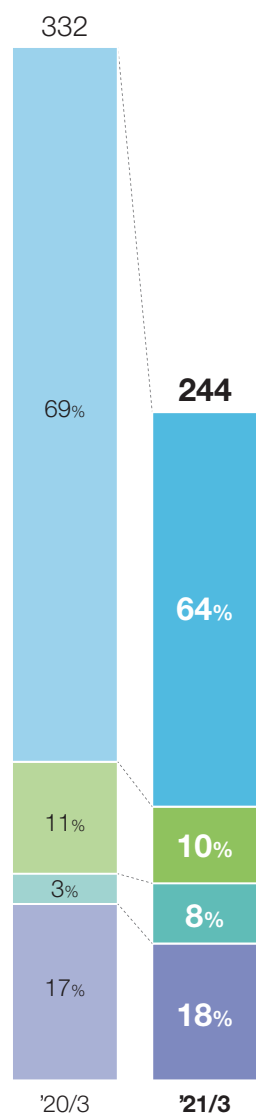
コロナ禍の影響によって世界経済は依然不透明な状況が続いていますが、中国やアメリカなど一部地域では回復の動きも見えてきました。アパレル・ファッション業界においても、中国、特に内需向け衣料品メーカーや、ラグジュアリーブランド向けに生産しているイタリアのユーザーでは、生産活動が戻ってきています。今後、経済の回復とともに、現状打開を目指した、そしてサステナビリティを重視した新たなビジネスモデルへの変革の動きが、各地で徐々に顕在化していくと予想しています。その好機を逃さず、中期経営計画の戦略に沿った強力な提案活動を各地の顧客に展開していくことで、当社の新たな成長のチャンスも必ず広がっていくと確信しています。

新中期経営計画のキーワードは「変革」と「再生」です。新しいシマセイキグループをゼロからもう一度作りあげるために、社員全員が熱い思いと強い気概を持って挑戦を続けてまいりますので、株主の皆様には、引き続き当社への温かいご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

事業別のご報告

事業別売上高構成比

(億円)



横編機事業

売上高 **155.4**億円 [前期比 32.0% ↓]
 営業利益 **Δ32.8**億円 [前期比 -]



- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、設備投資が低迷
- ・ホールゲームト® 横編機の販売台数も減少

デザインシステム 関連事業

売上高 **25.0**億円 [前期比 30.5% ↓]
 営業利益 **1.1**億円 [前期比 63.1% ↓]



- ・横編機の販売不振に連動して売上高が減少
- ・自動裁断機も需要の落ち込みにより販売が低調

手袋靴下編機 事業

売上高 **19.6**億円 [前期比 86.8% ↑]
 営業利益 **Δ2.4**億円 [前期比 -]



- ・大手ユーザーの設備投資が順調で売上高が増加

その他事業

売上高 **44.6**億円 [前期比 21.2% ↓]
 営業利益 **0.1**億円 [前期比 96.2% ↓]



- ・メンテナンス部品や紡毛糸の販売が低調で売上高が減少

オンライン展示会「先端材料技術展 2020」に出展

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催となった「SAMPE Japan 先端材料技術展 2020 ONLINE」に2020年10月14日から1カ月間、出展しました。

この展示会は「カーボンがつくる未来」をテーマに開催され、約60社が出展。4,600名を超える登録者が参加しました。

当社は、自動裁断機「P-CAM®」を中核とした「シマ・カッピング・ソリューション」の紹介映像や、導入事例などを紹介。ロボットアームとの連動による自動ピックアップの様子も紹介し、自動車や機械業界などさまざまな業界の参加者に、モノづくりの効率化・省人化を訴求しました。



WEB上でのブース画面

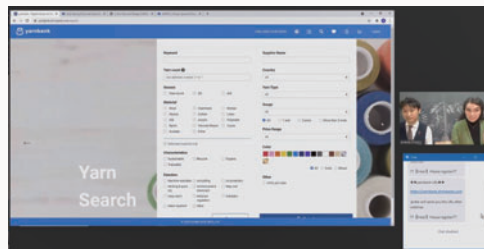
ウェビナーにて販促活動をスタート

コロナ禍でリアルな展示会が中止となる中、販促手段の一つとしてウェビナー（オンラインセミナー）を2020年4月から開始しました。

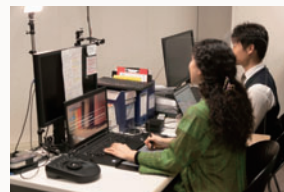
最新の市場状況や、アパレル業界の課題解決に貢献できる「yarnbank®」や「APEXFiz®」などの当社製品やソリューションをご紹介します。

2021年3月までの1年間で約20回開催しました。日本語だけでなく、英語や中国語でも開催し、参加者国数は50カ国以上、参加人数は約850名に及びました。

今後も時代に即した販促活動として、積極的に続けていきます。



ウェビナー画面



中期経営計画「Ever Onward 2020」(2018~2020年度)の振り返り

当年度(2020年度)が最終年度であった中期経営計画「Ever Onward 2020」は、急激な環境変化もあり、目標を大幅に下回る結果となりました。

前中期経営計画の結果(2020年度業績)

販売不振により、売上高が大幅に減少。2期連続の営業損失(2019-2020年度)

(単位:億円)	2017年度 実績	2020年度 実績	増減率 2017→2020 実績	前中計 当初目標	増減率 目標→2020 実績
売上高	718	244	△66%	1,000	△76%
営業利益	149	△91	—	250	—
経常利益	155	△72	—	250	—
当期純利益	112	△178	—	180	—
ROE	9.9%	△18.1%	—	12%	—

前中期経営計画「Ever Onward 2020」にあたる2018~2020年度は、米中貿易摩擦を発端とした世界経済の混乱や、アパレル・ファッション業界においては環境意識の高まりを背景に、商品の過剰生産や在庫数量を抑制する動きが表れ始めるなど、外部環境と業界のニーズが急速に変化しました。このような中、当社グループはコア・ビジネスであるコンピュータ横編機の販売が大幅に減少するなど大きな影響を受けました。加えて最終年度には、新型コロナウイルス感染症

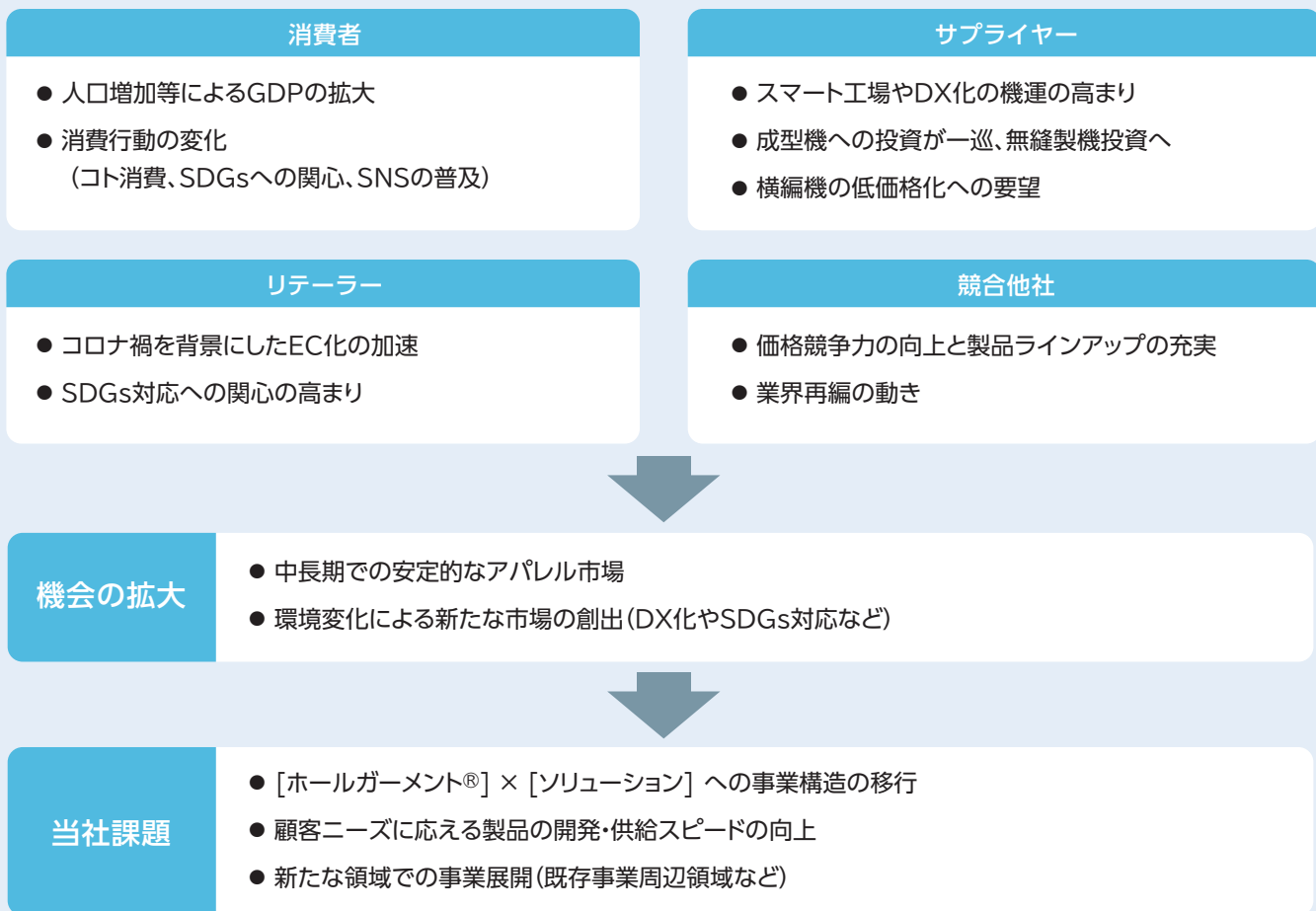
拡大という未曾有の事態となり、利益面で2019年度から2期連続の損失を計上するなど大変厳しい結果となりました。

外部環境の急激な変化だけではなく、アパレル・ファッション業界が抱える課題に対し、当社グループのポテンシャルを活かし切れず、アプローチができなかったのが大きな要因と考え、この度策定した中期経営計画「Ever Onward 2023」に、それらの課題を盛り込みました。

外部環境と当社課題

新中期経営計画の前提となる「外部環境」と、そこから導き出される「機会」、その機会を捉えるために必要な「当社課題」をご説明いたします。

外部環境の変化



新中期経営計画「Ever Onward 2023」(2021~2023年度)

当社課題に取り組むべく、2021年度から2023年度までの3カ年を対象とする新しい中期経営計画「Ever Onward 2023」を策定しました。「変革」と「再生」をキーワードに、まずは今後3年間で業界全体の変革の流れを作りながら、当社業績の黒字化を目指します。

経営理念/ミッション

Ever Onward — 限りなき前進

私たちは「愛」「創造」「氣」を合言葉に「Ever Onward — 限りなき前進」を掲げ、事業の持続的発展により、「世の中になくてはならない企業」になることを目指してまいります。

10年後ビジョン

- 当社の独創的な技術が広まることで、ファッション業界の発展に貢献する「課題解決型企业」へ進化していること
- ファッション業界で培った強みを活かして、他の業界の発展にも貢献する「感性情報型企业」へ進化していること

キーワード

「変革」と「再生」

社員一人一人の「意識」と「スピード」を変革し、ゼロから生まれ変わる。

経営目標

(単位:億円)	2017年度 (実績)	2020年度 (実績)	2023年度 (目標)	増減率 2020→2023
売上高	718	244	540	+121%
営業利益	149	△91	20	—
経常利益	155	△72	25	—
当期純利益	112	△178	20	—

持続可能な社会の実現に向けた取り組み

2030年目標として主に9つの課題に対し取り組みを推進します。

「製品」を通じて

9 企業と消費者の距離を縮める
ファッション業界のDX化

12 つるぎのつるぎ
ニット製品の在庫ロス削減

「会社」を通じて

5 シェアードワークを推進
女性役職者登用増

8 働きがいや成長機会を
有給休暇取得率UP

6 適切な水とトイレを確保
適正な工場排水処理

11 有害な化学物質を削減
化学物質排出量削減

13 気候変動に由来するリスクを削減
CO₂排出量削減

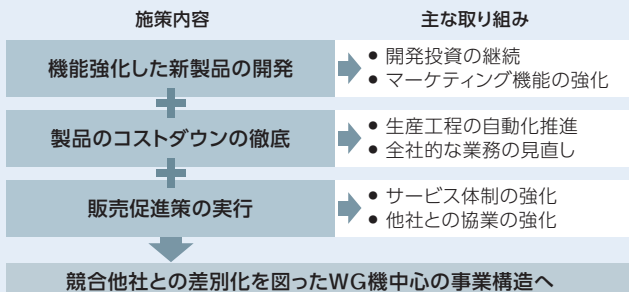
7 エネルギー効率を向上
再生可能エネルギー使用比率UP

15 緑地を確保
緑地割合UP

目標達成に向けた4つの重点施策

1 ホールゲーム事業の最強化

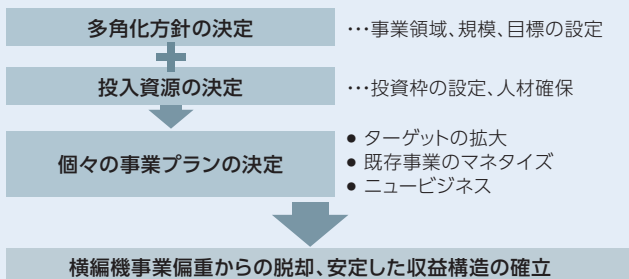
成型機中心からWG機中心の事業構造へ



※WG: ホールゲームの略

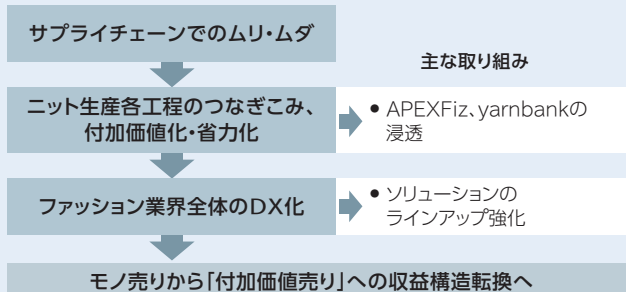
3 独自性を持った事業多角化の推進

早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ



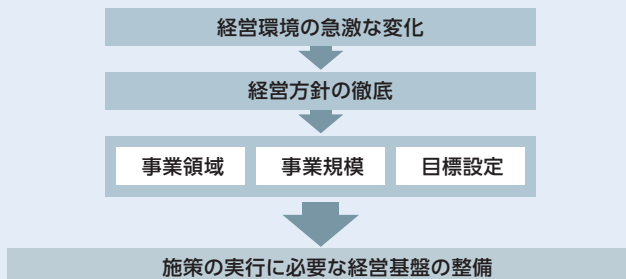
2 ソリューションビジネスへの業態変換

ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ



4 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

コロナ後を見据えた経営体制へ



株主還元

(1) 利益還元方針

当社は株主様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付け、事業の持続的発展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを基本方針とする。

そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行う。

(2) 株主還元指針(2021年度から3カ年)

連結配当性向: 30% を目安とする。

業績の黒字化を実現し、連結配当性向30%を目安とする「株主配当」を実施するとともに、株価水準や資金の状況、市場環境などを総合的に勘案し、時機に応じて柔軟に「自己株式の取得」を行うなど、資本効率の向上にも努める。

CSR/ESGの取り組み

当社は、企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)として、環境、社会、ガバナンス(Environment, Social, Governance)の課題解決に向けて積極的に取り組んでいます。その取り組みの中からいくつかをご紹介します。

太陽光発電を拡充しています

環境

当社は、日本でも有数の日照時間を誇る和歌山県の特性を活かし、他社に先駆け2002年より各工場に大規模な太陽光発電システムを導入し、再生可能エネルギーを活用しています。

今後も工場内で使用する電力を削減するとともに、再生可能エネルギー活用の取り組みを進めていきます。



企業の森を整備しています

環境
社会

当社は2019年から、和歌山県かつらぎ町において、「シマセイキ 天野の里山」として、植栽、間伐などの森林保全活動を行っています。

今年度も、植樹を行い、里山の維持、整備に取り組みました。



DX人材育成に取り組んでいます

社会

当社は今年度、DX(デジタルトランスフォーメーション)人材として、コンピュータプログラミングのスキルを持つ社員を、150人から300人に倍増する取り組みを行いました。

中期経営計画を実現させるためにもDX人材が必要であり、2021年度以降も社内人材の育成を通じて人員を増やしていく計画です。

ガバナンスの強化を進めています

ガバナンス

当社は、4名の独立社外取締役(監査等委員を含む)に就任いただくなど、経営の透明性を高める取り組みを推進しています。

また、グループ企業や海外拠点への内部監査も定期的を実施し、コンプライアンス遵守の確認も行っています。

コーポレートガバナンス・コードの改訂を見据え、そこで求められるガバナンス水準の達成への対応も進めていきます。

株主様とのコミュニケーションの充実に取り組んでいます

株主総会

定時株主総会は、新型コロナウイルス感染症の予防対策を施しながら、本社にて6月に開催しました。今回の株主総会より、当社WEBサイトにて報告事項の動画の録画配信を行います。

(<https://shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)

今後も株主総会を、株主様との重要なコミュニケーションの場として充実させてまいります。

※工場見学会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめとさせていただきます。

※本年の株主総会の報告事項の動画配信期間は、2021年9月末までとさせていただきます。また、動画配信につきましては、変更の可能性もございます。



株主優待制度

当社は株主還元の一環として、株主優待を実施しています。

3月期の株主優待では、オリジナルのホールガーマント[®]製品や、直営飲食施設での取扱商品などをお届けしており、その着心地や品質の高さを実感していただくことで、事業理解の一助としています。



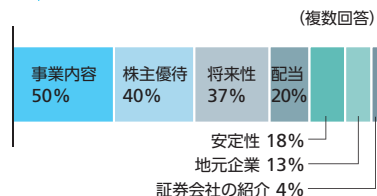
※ご所有の株数により商品は異なります。

株主様アンケート集計結果のご報告

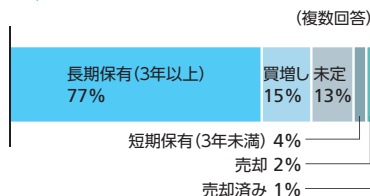
毎年、中間期の「株主のみなさまへ」にアンケートハガキを同封し、株主様のご意見を頂戴しております。

今年度も、約3,000名の方からご回答をいただきました。皆様からの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の事業活動やIR活動に活かしてまいります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

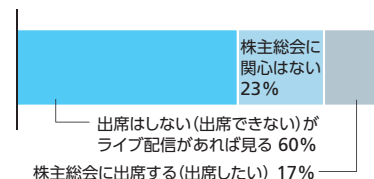
Q 当社株式を購入された理由をお聞かせください。



Q 当社の株式について今後どのようにお考えですか？



Q 株主総会への参加についてお聞かせください。



詳細な財務諸表は、下記URLもしくは
右の2次元バーコードからご覧いただけます。
<https://www.shimaseiki.co.jp/irj/library/list.php>

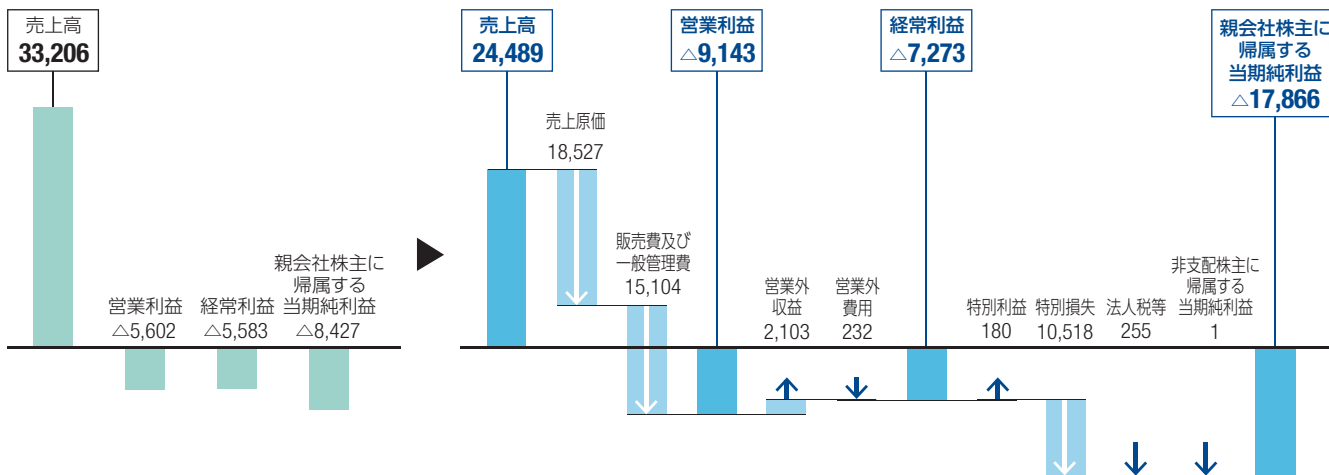


① 損益計算書の概要

※△は損失を示しております。(百万円)

前期(2019年4月1日~2020年3月31日)

当期(2020年4月1日~2021年3月31日)

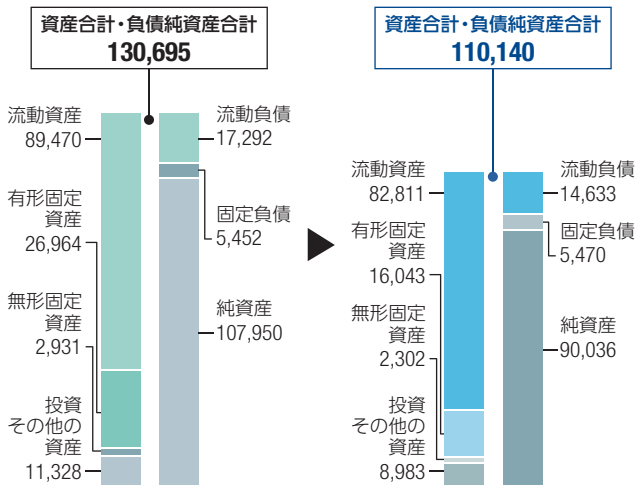


② 貸借対照表の概要

(百万円)

前期末

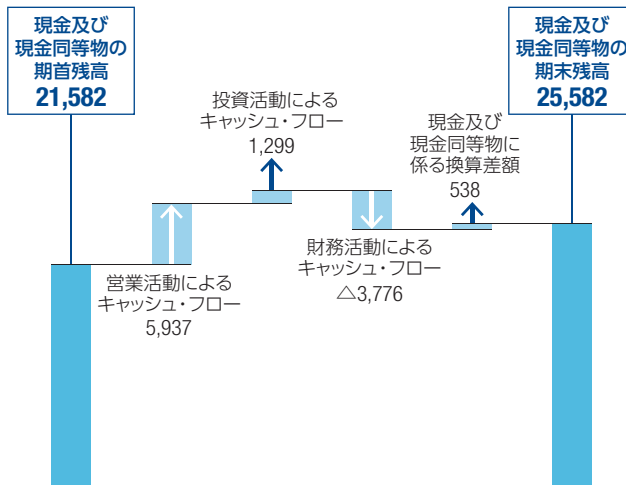
当期末



③ キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)

当期



会社概要・株式概要

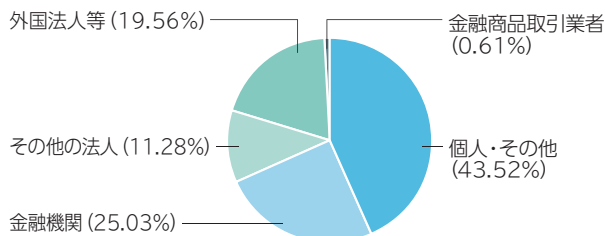
会社概要 (2021年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員数 1,433名(連結1,919名)
 事業内容 コンピュータ横編機
 デザインシステム
 自動裁断機
 手袋靴下編機 などの開発、製造、販売

役員 (2021年6月25日現在)

地位	氏名	担当及び重要な兼職
代表取締役会長	島 正博	
代表取締役社長	島 三博	執行役員営業本部長兼 トータルデザインセンター担当
取締役	梅田 郁人	執行役員島精機(香港)有限公司 CEO
取締役	南木 隆	執行役員経理財務部長兼管理部、 物流部担当
取締役	大谷 明広	執行役員生産本部長兼開発本部担当
取締役	北川 尚作	執行役員経営企画部長兼総務人事部、 情報システム部担当
社外取締役	一柳 良雄	株式会社一柳アソシエイツ 代表取締役&CEO / キャスター
社外取締役	残間 里江子	株式会社キャンディッドプロデュース 代表取締役社長/プロデューサー
取締役 (常勤監査等委員)	戸津井 久仁	
社外取締役 (監査等委員)	新川 大祐	北斗税理士法人 代表社員
社外取締役 (監査等委員)	野村 祥子	堂島法律事務所 パートナー弁護士

所有者別分布



株式の状況 (2021年3月31日現在)

- ①発行可能株式総数…………… 142,000,000株
 ②発行済株式の総数…………… 35,800,000株
 ③株主数…………… 15,463名
 ④大株主

(千株未満切り捨て)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
和島興産株式会社	3,001	8.70
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,849	5.36
株式会社紀陽銀行	1,387	4.02
株式会社日本カストディ 銀行(信託口)	1,284	3.72
島 正 博	1,070	3.10
島 三 博	1,061	3.08
株式会社三菱UFJ銀行	880	2.55
合同会社和光	780	2.26
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	691	2.00
梅田 千 景	632	1.83

- (注) 1. 当社は、自己株式1,288千株を保有しています。
 2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

『私の履歴書』連載

当社会長 島正博が、2021年3月1日から1カ月間、日本経済新聞の名物コラム『私の履歴書』で自身の半生を語りました。

日経電子版に会員登録されている方は、同社ホームページよりバックナンバーがご覧いただけます。

また、日本経済新聞が所蔵されている図書館などでもお読みいただけます。

株式に関する

『マイナンバーお届出』のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。お届出をされていない株主様におかれましては、お取引の証券会社等へお届出ください。

● **証券口座にて株式を管理されている株主様**
お取引の証券会社までお問い合わせください。

● **証券会社とのお取引がない株主様**
下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

TEL: 0120-094-777

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告

下記当社ホームページに掲載

(<https://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL(073)471-0511(代表)

<https://www.shimaseiki.co.jp/>



ホールガーメントおよびWHOLEGARMENT等は株式会社島精機製作所の登録商標です。
この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン
(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を
採用しています。



環境や健康に影響のある
揮発性の有機溶剤を
含まないインクを
使用しています。



この報告書は環境に
やさしいベジタブルオイル
インクを使用しています。



きちんと管理された認証林からの
木材や環境・社会的なリスクが低いと
された原材料等から作られています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

プラスチックなど、
紙のリサイクルを阻害する
材料を使用していません。